

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100666		
法人名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
事業所名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
所在地	愛知県名古屋港区南陽町西福田丸山21-1		
自己評価作成日	平成26年12月26日	評価結果市町村受理日	平成27年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&livingsvcCd=2371100666-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋市守山区森孝3-1010
訪問調査日	平成27年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

名古屋市郊外に位置しているため、施設周辺は田んぼや畑が多く、駐車場にある施設の畑も、四季を感じて生活することができるようになっている。また、畑では、野菜や果物を育てる楽しみを持ちつつ、無農薬の野菜などを使った料理を安心して食べることができる。食事は、基本的には手作りをし、美味しさや楽しさを持って食事ができるよう工夫している。
また、入居者さまの重度化は深刻な状態にあるが、家族さまはもちろん、提携医とも相談をしながら、終末期まで安心して暮らせるホームを目指している。入居者ご本人さま、家族さまの不安を払しょくできるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田んぼに囲まれて、グループホーム日陽はある。「こども110番」を引き受けているが、最近の台風で表示板が破損してしまい現在は表示されていない。重度化が進んでいる入居者の為、主治医を変更し、24時間の対応と、毎日の往診になり、入居者と家族ばかりでなく、介護するスタッフも安心してケアに邁進出来るようである。代表の自宅が目の前に有り、緊急時には、管理者が休日や夜間でも連絡を入れれば駆けつけてもらえるためスタッフは心強く思っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を合同会議で読み上げ、玄関に掲示するなど、実践につながるよう共有している ・地域密着型としての地域との連携、つながりには難しいところもある。	理念は玄関に掲示し、職員室には理念と日陽七訓(二年前に管理者が作成)が掲示され一カ月に一回開かれる合同ミーティング時に唱和している。唱和することでスタッフが入居者の介護時に理念や日陽七訓が生かされるようになってい	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・外では積極的に挨拶をし、地域に溶け込む努力をしている ・行事を開催し、近隣の方に参加してもらっている ・踊りなどのボランティアや、畑仕事などを手にとってくださる方がいる	町内会に加入し一カ月に1回発行している日陽だよりを回覧板で回してもらっている。「こども110番」(現在は破損の為掲示は無い)をひきうけ、何時でも気軽に子供たちが遊びに来てくれるようになるのを期待している。ホームの秋祭りには	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・散歩などが減り、交流が減っているため、地域貢献は難しい。行事の開催など、地域の方に参加していただけるものを開催し、努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・定期的に会議を行い、サービスの向上に努めている ・会議の内容を共有できていないことがある	運営推進会議は2カ月に1回開催し、参加者は学識経験者、他福祉施設の方、民生委員、いきいき支援センター、利用者家族、日陽スタッフである。推進会議での提案は重度化の進むホームの実情に合わないため、町内会の役員宅に	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・管理者が主に連絡を取り合い、協力関係を築いている ・すべての職員に伝わっていないことがある	生活保護を受けている入居者の件で区役所とは連絡を取り合っている。代表は役所の担当者が転勤で変わるため連携が途切れないように足を運んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・自由な暮らしができるよう、基本的には身体拘束は行っていないが、パウチをしている方が自ら取ってしまう、車椅子の方が傾きからの転落を防ぐため、家族の方に許可を得てつなぎを着たり、一部固定するなど工夫をしている	スタッフが、権利擁護の研修会に参加して、合同会議のなかで他のスタッフにレクチャーして、身体拘束をしないケアに努めている。パウチを自らはせず入居者には夜間はつなぎを着用してもらっている。家族には「緊急やむを得ない身体	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待はしていない ・入居者様を常に注意深く観察し、ケガや身体の変化などが発生した場合は、しっかりと原因を究明し、全職員が再発防止に努めるよう情報を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・スタッフ全員が同様に理解しているかは難しく、学ぶ機会も少ない。理解がスタッフの努力に任されている部分もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居契約時にしっかりと説明されている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会議を定期的開催している ・家族さまが来所された時などにも、ご意見やご要望をお聞きしている	家族会は家族の要望で3カ月に1回日曜日に一階と二階合同で開催している。意見や要望は3カ月に1回更新するプランのサービス提供表2に組み込み反映させている。家族向けの日陽だよりは、一階と2階をまとめて一部として毎月発行	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月合同ミーティングを行い、介護や日常生活については意見交換をしている。 ・運営については意見を出しづらい	合同ミーティングで意見交換は行われスタッフの意見もでているが、運営についての意見は代表者や管理者はだしづらいつと感じている。	代表や管理者とスタッフとでは観点が違うかと思われる。合同会議や申し送りの時に代表者はスタッフの意見や思いを自分の意見で遮らず、聴くたればにされることに期待したい
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・個々の状況に対応できるよう努めているところもあるが、されていないと感じられる部分も多い。 ・給与が少なく、生活が困難		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・市の研修に積極的に参加している ・会議で研修内容を報告し、内部研修にも活かしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・あまりできていない		

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・話しかけたり、コミュニケーションを増やして気持ちをくみ取り、安心して暮らしていただけるよう努力している ・さりげない会話で本人様の話を聞き出すようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・お会いした時などに日々の暮らしぶりをお話しし、より良い関係づくりに努めている ・本人様の今までの生活や要望などを聞き出し、それに近づけるよう努力する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人様に今、何が必要か確認し、定期的に会議でも話し合い、全員で対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・洗濯などお手伝いできる方にはお願いし、関係を築いている ・重度化された方が増え、できないことが増えてきたため、介護されるばかりの方もいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会や行事への参加など、中々来所いただけないご家族さまが増えている ・来所された時には、生活状況をお話しし、要望などを聞けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・お友だちが来所された時など、積極的に会話に参加するなどし、ご本人様との会話の橋渡しをするようにしている ・認知症が進み、お友だちのことを分からなくなってしまうためか、来所される方も少ない	グループホームに入居していることを内緒にしておきたい入居者もおられるので、支援が難しい方もいる。2月3日は毎年豆まきに近くのお寺に、出かけている。お寺でバスを用意していただき入居者には喜ばれている。近くには喫茶店が	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日中居室に一人にならないよう、食事はもちろん、ゲームや歌など毎日一緒にコミュニケーションを取っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・施設を離れるのは亡くなられる場合が多く、関係は切れている ・退所された方でも関係を続けたいが、実際には難しい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・常に思いや意向を確認し、尊重している ・重度化により確認が困難なため、十分ではないかもしれないが、職員全員で話し合い、対応している	日々の介護の中で入居者と、どのような態度で接するかを考えて、入居者の一番の理解者になったつもりで意向や思いの把握に努めている。見守りを大切にして見守りの中から一人ひとりの行動を観察し、希望や意向を把握するよう	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時の資料や日々のコミュニケーションで把握し、確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日バイタルチェックなどを行い、個人記録を記入して確認、把握している ・申し送りをしっかりと行い、その日の状態を確認している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・定期的に会議を行い、その人に合ったケアの在り方を常に考えている ・医師や看護師にも相談している	スタッフは一人～三人を担当している。月末にモニタリングと評価をし見直しをして変更か継続かを決めている。ミーティングはスタッフ全員で行い、計画に意見が反映されるようにしている。計画は家族や本人に説明をして理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ご本人の状況をその都度確認し、柔軟に対応している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時どきの状況に応じて対応できるよう、話し合い実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・現状ではなかなか難しい ・歌や踊りなど来ていただいて、入居者に楽しんでもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・在宅で24h対応のクリニックと提携し、訪問診療を受けている	24時間対応のクリニックと提携し、ほとんどの入居者のかかりつけ医となっており、急変時にいつでも対応できる体制にある。往診は毎日あり、週に2回は看護師も訪問がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・施設にいる看護師や、週1で来ていただいている訪問看護の方に相談し、支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・緊急搬送時の受け入れが万全とは言えず、関係づくりは難しい		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご家族さまに早い時期から終末期の対応について希望を聞き、それに沿った対応に努めている	契約時にご家族と話し合い、希望に沿った対応を行っている。これまでに7名ほど看取りまで実施した経験があり、今後もご家族の希望があればできる限り看取りまで対応できる体制確保に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルはあるが、やはり焦ってしまうこともあるため、訓練などを通して実践できるよう努めている ・訪問診療が24h対応になったため、緊急時にも連絡をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に避難訓練を行っている ・会議でも話し合いをしている	年に2回夜間想定避難訓練を実施している。要介護度の高い入居者も参加する実践的な訓練で消防署職員も立ち会うなど、関係機関の協力を得ている。	

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーを損ねないよう努めているが、重度化している方には難しい ・言葉遣いに気を付け、対応している 	言葉での会話が難しい入居者でも表情を観察するなどして、おひとりおひとりの想いをなるべく把握できるよう様々な努力をしている。人生の先輩として尊敬する心を持ち、言葉遣いについて気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・常に入居者の希望を確認しているが、重度化のためなど希望を表すことが出来ない方には、職員が手伝ってしまうことがある。 ・時間に追われてできないときもある 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人のペースを大事にしているが、健康や安全に配慮して希望に沿えないこともある ・できる限りご本人のペースに合わせられるよう、配慮している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に訪問理美容を活用している ・髭剃りや爪切りを心掛ける ・ご本人が選べる場合は、その日に着る服などを選んでいただく。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の様子を見ているため、待ちきれないほど、すべての方が食事を楽しみにしている ・配膳は難しいが、下膳をしていただくなど、一緒にできることをしている ・前後の挨拶を必ず行っている 	喫茶店のモーニングサービスが好きな入居者が多かった事から、週に2回はホームでも朝食にパンを出している。食事を楽しめるようできる範囲で外食にも積極的に出かけている。入居者の意見も取り入れながら献立を計画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個人記録のほかに食事量や水分量をチェックし、不足のないよう確認している ・食後や運動後など、必ず水分を摂るよう促している 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人でできる方、声掛けの必要な方、介助の必要な方それぞれに合わせて対応している 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・その人に合った排泄パターンを把握し、使用量を増やさないようにする ・時間を確認し声掛けを行っている ・なるべくトイレでできるよう援助している ・自立に向けていくのは難しい 	チェックリストで排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できるよう努めている。安易にオムツ使用しないよう、常にスタッフで話し合いながら適切な方法で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分の摂取や運動などを心掛けている ・便秘になった場合は看護師やマッサージ師に相談し、服薬などを行っている 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回希望の時間に入ることは難しいが、本人の意思を尊重して声をかけ、ゆっくり楽しく入っていただいている 	できる限り入居者の希望に沿った入浴を楽しんでいただけるよう、声かけ等も工夫している。回数や時間帯も特に決めず、入浴がお好きな方には希望の回数や時間帯にかなうよう、お嫌いな方にも上手く誘導して入浴していただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日中も必要に応じて休んでいただくなど、本人の意思を尊重して行っている ・規則正しい生活をし、みなさんゆっくり休んでいただいている 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み忘れなどが無いよう工夫している ・症状の変化などがあれば診療所や看護師に相談しているが、全員を把握するのは難しい 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・外出、誕生日会、レクリエーションなど、できる限りで行っている ・重度化の方が増え、職員が1対1で対応しなければならぬ場合があり、イベント以外では難しくなっている 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行困難の方が多く、多くの機会を持つことが難しい ・外出できる方は、喫茶店や少しのお買い物などにできるだけ行けるようにしている 	要介護度が高い入居者が多くなってきており外出が困難なこともあるが、できる範囲で季節を感じられるイベント(初詣、花見、節分等)や喫茶店等での外食や買い物などに出かけられるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理をできる方がいないため、施設で預かりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話や手紙をできる方がおらず、会話が中心となっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビング、居室とも掃除を心掛け、居心地の良い空間を作っている ・季節を感じるものを作ったりすることが、以前はできていたが、重度化のためできない方が多くなり、難しい	こまめに掃除し清潔な空間を心がけており、掃除は入居者に手伝ってもらう事もある。2階のユニットでは犬と猫と共同生活しており、入居者とふれあう姿も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングではご本人それぞれのやりたいこと、お話しをしたり、歌を歌ったり、テレビを見るなど思い思いに過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご自宅から家具や身の回りのものを持ち込んでいただき、昔のまま快適に過ごせるようにしている ・仏壇を置いたり、写真を飾るなどしている	ご家族に協力していただき使い慣れた家具を持ち込んでもらうようお願いしている。ご希望があればベッドを無料で貸し出しを行っている。天気のいい日には必ず窓を開け新鮮な空気を取り込むようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・フラットフロア、手すりなど、ご本人が安全に快適に過ごせるよう工夫されている ・本人のできることを見極め、職員が介助し生活している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100666		
法人名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
事業所名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
所在地	愛知県名古屋港区南陽町西福田丸山21-1		
自己評価作成日	平成26年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	hp?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2371
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋市守山区森孝3-1010
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

畑の野菜が豊作でした。 一人一人の残存機能を活かして、本人のできる事をやってもらい、その機能の一維持に力を入れている。 家庭的な雰囲気の中で穏やかに暮らして頂けるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方と関わりを持ちながら、理念の元 取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設と地域がつながりを持ち続けられるよう会議し、町内の行事に参加しており、近隣からのボランティアもあり、秋祭りには近所の方々が参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまり行われていない 事業所便りを回覧板に折り込ませていただき事業所の活動を地域の皆様に理解して頂いている。近隣の会社の新入社員研修を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催されている。 行事報告、取組みについて話し合いをしている。実際の立案は現実的に困難なものが多く実践はほぼされていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あまり連絡が取れておらず協力関係が築けていない。 入居者の担当の保護係とは、蜜とは言えないが連絡は取り合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	口中は施錠せず、拘束にあたるケアはせず取り組んでいる。 身体拘束は極力行わないようスタッフ一同努めており、身体拘束に代わる手段を会議等で立案し実践している。やむを得ず身体拘束を行う場合は、ご家族様のご同意を得ている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で勉強会を開き職員の理解を深め努めている。 高齢者虐待について学ぶ機会はあまり無い。 施設内で不可解なアザ等、見つけたときは虐待も考慮に入れて原因を探るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修へ行き職員への報告を通じ学んでいる。 権利擁護のキャリアアップ研修をスタッフの代表者が受け、伝達講習として合同ミーティング時にスタッフ全員が学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に主に施設代表者が対応し、契約書、重要事項説明書等の契約書類一式を入居者ご家族様とともに読み合わせを行いご納得頂いている。質問は随時受け付けている旨伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス提供表の更新時には、ご本人、家族に意見や要望を確認している。 国保連に意見等を表すことができる事は玄関に書面にて掲示してある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護について話し合いは行われているが、運営に関して職員と話し合いをしたり、意見が出る事はない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	私的な見解により、実際の状況から逸脱しているとも否定できない。その為、スタッフのやりがい、向上心に繋がらず、職場環境を自ら乱している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ研修には積極的に申込み受講してもらっている。スタッフ全員の知識習得の必要があると思われる研修については合同ミーティング時に施設内研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行われていない。研修などで他施設の人と交流を持つことはあるが、施設自体が機会を作っていない。 研修を通じて同業者との交流の機会を得ている。		

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に施設生活で臨むことを聞き、サービス計画に反映している。入居間もない内はこちらから積極的に声を掛けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談を受けた時点でしっかり話を聞き、ご家族様本人も気付いていないニーズも具体的に言葉にして明らかにするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に必要なサービスの優先順位を判断し、ご本人・家族の希望を聞きながらサービス提供できるよう計画書を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など一緒に行っている。 出来る事をして頂き生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が切れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ている方もいるが、難しい方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間へ入り会話をするなど取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族の方から相談へも対応している。 私がこの事業所に就いてから契約終了が全て、死亡によるものであったため、当方からの積極的なフォローは行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃話す中で引き出し、把握できるようにしている。若しくは本人本位に行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴をご家族や本人から聞き出し、その人の趣味や嗜好を生活に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人に合った日課表を作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時にカンファレンスを行いしんたい機能の維持、向上を目指した話し合いをし介護計画に反映させ、ご家族本人に説明を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々細かい部分も記録に残し、職員・管理者と共有している。会議を通しその後のケアへ活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状ではあまり取り組まれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまり把握できていない。 地域資源がない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の提携している病院へ受診している。 本人が希望がある場合、希望の病院へ受診していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院と電話や直接訪問し情報共有しながら、相談している。 日頃からの関係づくりはしていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師が終末期ケアの段階と判断した際、随時家族とも話し合い、今後のケアの方針について話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設スタッフが普及員の資格を取得し、施設内で救命救急講習を実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3Fに避難できるようにしてある。 避難訓練を実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重した言葉掛けをしている。 単に敬語、尊敬語を使うのではなく、馴染みの言葉等、親しみをもって接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分からない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活の範囲内で病状に合わせた本人のペースでの援助は行うがそれが本人の希望か分からない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧される方もおり、希望された化粧品を使われている。 理美容の訪問がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いリストを作成し、好みに添った食事を提供できるよう心掛けている。簡単な食事の用意、下膳、食器拭き等を一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やバランスを考えメニューを立てている。水分量は毎日計算している。 制限のある方は範囲内で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	細やかな誘導などで行っている。パターンが分かりにくい方はその日の排泄記録からトイレ誘導時間等対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤で排便コントロールしている。 身体を動かせる方は運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合った支援をしている	本人の希望に沿っていない。 入浴は個々に合った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠されていれば自室で休んでいただいている。 本人の寝たい時間に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を見て把握に努めている。 一覧表を作成し、一目で分かる書類があり、症状を記載し、対応を記入する欄も設けてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事を役割として行っている。 ビールを嗜む。 個人レクの実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日ではないが月に一度程度戸外へ買い物など行っている。日頃から散歩は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方はしてもらっている。 外出時など自己にて支払いもされる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙をしたいと承ったことがない。 訴えは時々あるがしてもらっていない。 手紙を書いていたいただき、来所された時に手渡すことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り、イベントの様子を置いて季節感を出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所を決めておられる。そこで会話などして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたダンスや仏壇希望の物は持って来ていただいている。ベッドの位置等、本人が過ごしやすいように希望に沿うようにしている。 自分で判断し、使う事が難しい方はあまり、配慮されていない事もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札を作り、トイレに(トイレ、便所)等書いて分かりやすいようにしてある。		